

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100185		
法人名	有限会社 ラポール		
事業所名	グループホーム 神埼ひだまり		
所在地	佐賀県神埼町竹4694-1		
自己評価作成日	平成25年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成25年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業理念である『笑顔と真心ですべてはご利用者の為に』を常に心がけご利用者に接しており、ご利用者が一人ひとりゆっくりと自分のペースで生活が送れるように支援しています。また、地域の中で生活できることに感謝し、ご利用者が地域の一員として生活できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれたホームでは、入居者のペースに合わせた心地よい介護が行われている。長年、地域の堀掃除に参加したり、散歩中に会った人と話を楽しんだり、また、公民館掃除を自らから出て出ている事で地域とのつながりが大きくなっている。今ではホームの駐車場が夏休みのラジオ体操の場となったり、子供110番の家として地域にとっても身近なものとなり、下校時、トイレを借りに来る子供達が多い。職員の和は強く、離職が少ない事が馴染みの職員による介護となり、入居者、家族の安心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔と真心ですべてはご利用者の為にを理念とし玄関に大きく掲示し、出勤時などいつでも見る事ができるようにし、カンファレンスなどの際にも職員と共有し実践につなげるようにしている。	理念を玄関に掲示し、日々、意識づけが行われている。また、伝達研修等、職員が集まる際、理念に沿ったケアになっているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	集落の散歩の際、お話ししたりと交流し、近所の子供たちとも花火大会や夏休みのラジオ体操の場所として駐車場を提供し、管理者は出来る限り公役などに参加するようにしている。	地域の人より依頼され、駐車場が夏休みのラジオ体操の場となっている。また、子供達と一緒に花火大会を楽しんだり、ホームが、子供110番の家となっており、地域との交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議ので区長や民生委員にも参加して頂き、認知症の高齢者に対する施設での対応や方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動を報告し、会議での内容を大切に職員にも伝えサービス向上に取り組んでいる。	区長、民生委員、地域包括支援センター、市役所、家族が参加し、活動の報告と共に意見交換が活発に行われている。避難経路の意見やシルバー作品展の情報等が出され、そこでの意見や情報をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回市役所より参加して頂き、情報交換を行っている。また生活保護なども相談にもアドバイスを頂いている。	運営推進会議や市役所主催で行われるケアネット神崎を通じ、相談や協力が得られる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルをや研修会などにより、禁止対象となる行為を理解し、玄関の施錠や身体拘束をしないようにしている。	身体拘束廃止マニュアルや研修会で内容とその弊害を認識している。自覚しない言葉による拘束をしていないか、常に振り返りが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には資料などを回覧してもらい理解し、ご利用者の尊厳を十分に考え、ご利用者や職員の状態を観察し虐待防止に努めている。またすぐに通報できるように、通報場所や方法を見れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護に関する制度を利用している方はいないが、職員には資料などをいつでも見れるようにし、必要時にはすぐに対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には事前に訪問調査を行い、事業所等の説明を行い、ご利用者や家族に不安な点、疑問点が無いかを聞き、理解、納得を図っている。契約時にも再度質疑応答し、更なる納得、理解を図っている。解約や改定などの際にも同様に納得、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見や事業所内に苦情箱を設置している。また面会の際に意見などを聞きその際必要であれば代表と話し合いを行っている。	運営推進会議での家族の意見と共に訪問時や電話連絡時、また、家族を訪問して意見や要望を聞くように努めている。出された意見は日々のケアや運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に職員の意見を、提案を聞くようにしている。その際、重要な意見などがあれば代表と話し合うようにしている。	カンファレンスや日々の活動の中で、ケアについての提言、職員の待遇や要望等を聞くように心がけ運営に反映させている。その事が職員の離職率の低さとなり、入居者、家族の安心となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績、勤務状況の把握に努めており給与水準、職員の休憩室の整備など環境整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知識や技術も向上のため、出来る限り外部研修会や勉強会に参加できるようにし、個々の特技や能力を生かせるようにし役割をあたえている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加や有料老人ホームの職員と交流を図り質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込みに来られた際に、家族やその方のおかれている環境などを聞き、ご本人との面談時に話を傾聴しご本人の不安や望んでいる事を少しでも理解できるように努め、不安を和らげ、入居ができるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申込みに来られた際に、家族の状況などを聞き取っている。また自宅などの訪問時にこれまでの生活やこれからの事などを話し合っている、家族の不安が軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限り家族やご利用者が必要としている支援やサービスが受けられるように、必要な時は市役所などに相談しながら対応ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者との関わりを多く持ち一緒に過ごす事で喜怒哀楽を共有し、会話の中から学ぶ事も多くお話を傾聴している。調理の味付けなどアドバイスをもらい行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでなく、家族の力も借りながらご利用者を支援している。また、面会時に家族とコミュニケーションを図り、何でも話し合える関係となるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者全員が馴染みの場所へ出向く事がなかなかできないが、会話の中で馴染みのある場所の話をするようにしている。中には、昔から通っていた美容室に行かれたり、昔からの友人などには来て頂いている。	家族と墓参りに行ったり、昔から利用している美容院に行ったり、また、馴染みの友人が訪問してくれたりとの関係が途切れない支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関わりが多く持てるように、皆で創作したり、職員が間に入り会話が広がるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も困った事や相談事があれば何時でも連絡して頂けるようにしている。必要であれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向をご利用者、家族などから聞き、ご利用者の思いを大切にしている。また、これまでの生活パターンや現在の生活パターンを見てご利用者の思いをくみ取るようにし、本人本位に検討している。	本人から希望、意向を確認している。困難な場合は言葉、表情、行動から組み取ったり、家族からの情報を得るように努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時に生活歴やこれまでの生活について、ご利用者、家族、担当ケアマネに伺い把握に努めている。また、入所後もご利用者、家族、友人などに、これまでの暮らしについて聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケース記録に一日の記録を記入し、状態を把握し、職員で統一したケアができるように日々気付いた事や変化を業務日誌や申し送りノートに記入したり口頭で伝えたりし把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合いをし、その意見をまとめ介護計画を作成している。また、面会時や電話などで意見や要望を聞き取り入れている。	本人には日頃の関りの中で、家族からは面会時や電話で意見、要望を聞いている。また、ケアスタッフの気付きや意見を取り入れ、介護計画が作成されている。変化があった時に、随時、変更がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などを、ケース記録に記入し、カンファレンスを行い、職員間での情報を共有しながら計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、家族の要望に柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事にて、ボランティアのアコーディオン演奏して頂いたり、避難訓練では消防署と連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、ご利用者、家族の希望にて、今までのかかりつけ医か施設の協力医療機関か選んでいただいている。またどの医療機関に対しても連携を取り適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族が希望される医療機関での受診となっている。協力医療機関以外の受診は家族と一緒に管理者が同行されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成担当者が看護師であるため、日頃の様子などは、相談している。また看護が必要な場合は、有料老人ホームからの看護師の応援も可能であり、医療機関とも連携し適切な受診、看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会をし、主治医、担当看護師、ソーシャルワーカーから状態を聞き、早期退院に向けて、病院側、家族の意見を聞きながら勧めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から頻繁な医療行為ができないこと、できる限りの介護は行うことを家族に伝えている。職員、主治医とグループホームで何処まで対応できるかを話し合い、グループホームでは難しい場合、または家族の希望があった場合は、受け入れ先などをこちらで探している。	契約時、重度化や終末期について訪問看護等利用して出来る限りの介護は行うが、頻繁な医療行為は出来ない事が説明されている。重度化された時、家族、医師、職員でどこまで出来るか話し合いを行う体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、説明しておりまた主治医に応急手当の方法を聞いたり、研修に参加し、定期的にマニュアルも確認し対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の立会いのもと昼夜の火災を想定した避難訓練を開催しており、運営推進会議などで、避難の協力、避難場所を明確にしている。	消防署立ち会いのもと、近隣の住民の参加を得て、消防、避難訓練が行われている。運営推進会議の中で出席者の意見をもらいながら検討し、水害時等においても避難場所、方法等を明確にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬すること、相手の立場に立って対応することを、カンファレンスの際に話をしプライバシーには十分配慮し羞恥心や自尊心を傷つけないように言葉掛けし行動している。	言葉の内容や語調が入居者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、常に心がけがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるご利用者は本人の意見を尊重し、自己決定が難しいご利用者には本人の立場に立って思いやり希望を察知できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは、おおまか決まっているが、できる限り、ご利用者が過ごしたいように生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみにも十分気をつけており、2ヶ月に1回ボランティアの方により散發して頂き、パーマなどの希望があれば、美容室を利用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが、料理の下ごしらえや味見をして頂いている。日常会話の中で食べたいものや好きな物があれば献立に取り入れるようにしている。	テレビや日常の会話から希望するメニューを把握し、献立作りが行われている。入居者ももやしの根切り、つくしのはかま取り等の下ごしらえ、味見等、出来る範囲内で職員と共に食事作りを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量はチェックし摂取量把握に努めている。夏場などは水分摂取回数を増やしたり、食事量が低下された方に対しては、摂取しやすいものを提供するようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の方には言葉掛け、誘導を行い介助が必要な方に対しては、口腔ケアを行っている義歯の方は毎回外し磨いている。歯茎や義歯の調子が悪い際には、歯科医院より往診して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンを把握し、排泄の失敗が少なくなるように誘導している。立位が不可能であっても尿意、便意がある方に対しては、職員2人で介助しトイレで排泄していただいている。	排泄チェックシートを使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意、便意のある人にはトイレでの排泄が出来るように支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の力をなるべく使わないようにし、食物繊維の野菜を多く取り入れたり、デザートにヨーグルトを提供したりしている。また体を動かしたり、腹部のマッサージを行うなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中であれば希望に応じて入浴していただいている。入浴の拒否があれば時間をおいたり、職員を交代したり、日を改めてお誘いしたりと気持ちよく入浴できるように支援している。	希望によりいつでも入浴が出来る体制が整えられている。入浴を拒否される時は無理強いはせず、時間をおいて再度声かけを行ったり、別の職員により声かけを行うなど工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて、昼夜逆転などが無い限りは、昼夜休みたい時に休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を記録室においており、いつでも見れるようにしている。副作用などについては、薬剤師に教えていただき服薬に支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や個人に合わせた役割を持っていたり歌や散歩、草むしりなど好きな事を好きな時に出来る限り行っていたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者、家族の希望により外出されたり、施設でドライブや庭、集落への散歩に行かれている。	日常的にドライブしたり、ホームの周りを散歩したりして、季節を楽しまれている。また、家族と一緒に家に帰ったり、墓参りをされたり、食事を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望により家族と相談し少ない金額で所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から電話の希望があれば自由にかけていただいている。年賀状など書く事ができる方は書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は大きな物音を立てないように配慮し、落ち着いて過ごしていただけるように季節の花や飾り物を飾ったり生活感を重視している。光や温度湿度にも十分配慮している。	自然に囲まれたリビングから見える木々や花々から四季を楽しむ事が出来る。また、ご飯の炊ける匂い、食品を切る包丁の音が聞こえ、居心地良くゆっくりと思いいくつろがれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテーブルやソファを置いており、自由に好みの場所に仲良し同士で話したり、ソファでくつろいだりご利用者間で空間、居場所ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者や家族と話をし、今まで使用されていた物や写真などは自由に持ってきていただいている。必要であればご自宅から施設まで運ぶようにしている。	本人、家族が希望する物は自由に持ち込みが出来、安心して過ごせるように配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や、トイレ、風呂場には手すりを付け入口には名前や目印を付け自ら移動できるようにしている。また、障害となる物はなるべく置かないようにし、安全な環境作りに心掛けている。		